

A 花の咲く時期が植物によって違うのは、植物がそれぞれ違う進化の歴史を持っているからです。花が咲くのはおしべの花粉がめしべについて種子を作るためです。子孫を残すため、大変大

はおいしくて栄養のある実を作ります。これらは春に花が咲き、夏の間太陽の光をいっぱい浴びて養分を作り種子や果実に蓄えます。花が咲いてから養分を作るのに時間がかかるのです。

を種子のままで過し冬を越すとすぐに芽を出します。逆に、高い温度が生長に適し、低温に弱いアサガオなど、もともと熱帯から来た植物で、夏に生長し花が咲いて種子を作り、寒い冬を種子の

おもしろ

科学館



回答・奥田 一雄 高知大理学部助教授

(協力) 高知大 科学・技術相談室

切なことなのです。

まだ雪の残る早春、落

種子を作るには多くのエネルギーが必要です。

形で耐えて、暖かくなると発芽します。

葉した明るい森の中で真っ先に花を咲かせるカタクリやイチリンソウの間。これらは森の他の植

植物は生長して葉を広げ、太陽の光からエネルギーを得ています。一年で一生を終える植物は、

植物が大地へ進出したのは四億年前といわれます。海にいた植物が上陸してから現在までに、地

物が芽吹き、葉を広

げて太陽の光をささぎ

ってしまっ

前に種子を

作ります。

森の中で光

を利用でき

る限られた

期間に花を

咲かせるの

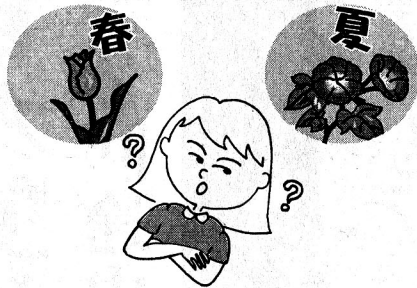
です。

春、北国

花の咲く季節

Q 花には春咲くものや夏咲くものがありますが、どうして季節が分かれるのですか。

(安芸第一小3年・荒川ゆい)



異なる進化の歴史

では雪解けで川が増水すると、河原の植物は流されてしまいます。水が引いた後、何も生えていない河原でいち早く芽を出して生長するのはヤナギの仲間。初夏に花を咲かせるため、真っ先に場所を確保して子孫を残すのです。

種子を作るためにエネルギーを使い果たして自分らは枯れてしまいます。もし花を咲かせるタイミングを逃したり、生長に不適な季節に種子が芽を出すと子孫を残せなくなってしまう。

レンゲなどは春が終わるまでに花が咲き、種子を作ります。これらの植物は高温に弱く、暑い夏

球上では大陸が移動したり、氷河期などの気候の大変動がありました。今私たちが見る植物はそんな自然の大変動に耐えながら代々子孫を残してきました。その間、植物は自分の体の形や生活様式を進化させて地球上のさまざまな環境に適応し、たくましく生き続けてきたのです。